

「元気な富山米ブランド」のための重点技術対策

～ 1等米比率90%以上を目指して～

適期作業のため、適正な品種構成を

近年の高温傾向のなか、稲の生育が早回り、特に「移植コシヒカリ」で生育ステージや気象に応じた管理が遅れ、品質低下につながっている事例があります。コシヒカリの高品質・安定生産のため、労働力や機械設備など経営体・地域に応じた品種構成への是正をお願いします。

【目標品種構成比】

早生20:中生60:直播コシ10:晩生10

- 高温登熟に強い「てんたかく」「てんこもり」の導入
- 出穂期が遅くなる「直播コシヒカリ」の作付拡大

H25に多発した白未熟粒



図 白未熟粒(左:乳白、中:基白、右:背白)

1 高温に打ち勝つ環境づくり

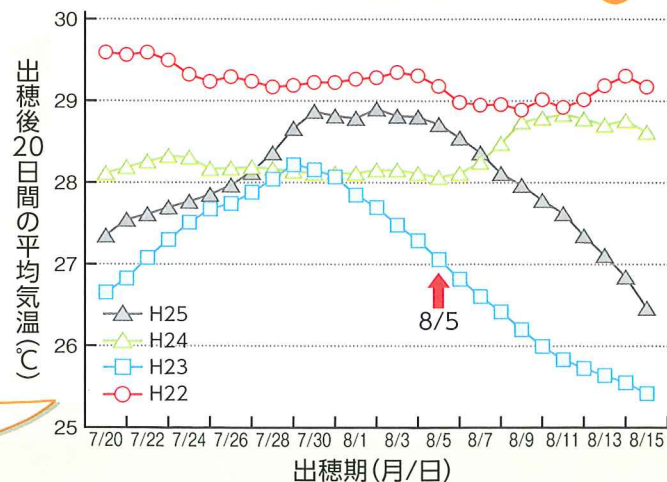
- 堆肥やケイ酸質資材等**土づくり**資材の積極的施用
- 積極的な**深耕**しで作土深15cm以上の根域確保
- 土壌診断に基づく**施肥改善**



2 高温を回避する

- 「コシヒカリ」は、5月15日を中心とした田植えの徹底
- 田植えにあわせた播種・育苗作業で老化苗を防止
- 「コシヒカリ」直播栽培の導入で作期幅を拡大

出穂期が遅くなると、白未熟粒が多くなる
平均気温27℃を回避できる。



3 高温に打ち勝つ稲体作り - 適正生育量への誘導 -

- 栽植密度70株、植付本数3~4本、植付深さ3cmの徹底
- 土壌条件に応じた**基肥窒素量の確保**
砂壤土3.0~4.0kg/10a、埴壤土1.8~2.6kg/10a
- 田植え後1ヶ月頃を目安に**溝切りと中干し**を徹底(乾きすぎに注意!)
- 幼穂形成期以降は**飽水管理**(足跡に水がたまる程度に)
- 生育や気象に応じた穂肥の施用 ▶ **過剰籾数を回避**



植付深さ 1cm 3cm 5cm
株当たりの茎数 19.0本 16.3本 11.6本
深植えて茎数不足
植付深さと初期生育の関係(7葉期頃)

中干・間断かん水
適切な圃場

整粒歩合
72%



中干・間断かん水
不十分な圃場

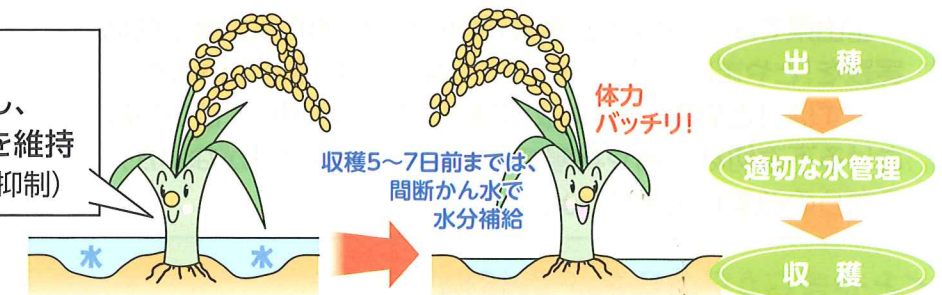
整粒歩合
49%

出穂期までに十分な根量を確保!

4 登熟期の稲体の活力維持

- 穂揃期の葉色を4.2~4.5(砂壤土は4.5)に誘導
生育・気象状況等に応じて、**追加穂肥を施用**
- 出穂後20日間の**湛水管理**を徹底(水の入替えを忘れずに)
- 刈取り5~7日までは**間断かん水**(フェーンが予想される場合は事前に入水)

出穂期から20日間は、
田面水の深さを2~3cm程度とし、
田面が露出しないよう湛水状態を維持
(稲体の活力維持・カドミウムの吸収抑制)



※カメムシ防除は確実に!

- 穂揃期の防除は遅れずに(出穂後3~5日目を目安)
- 「てんたかく」など早生は、穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底(防除間隔は7日を目安に)
- 防除後もカメムシの発生が多いところでは追加の防除を実施